

# 令和4年度 第2回石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 議事録

## 要点筆記

■日時：令和4年11月9日（水）10時～

■場所：石狩市民図書館 視聴覚ホール

■出席者：下記表のとおり

委員		事務局	
役職	氏名	所属	氏名
委員長	田岡 克介	生涯学習部市民図書館館長	西田 正人
委員	石橋 孝夫	生涯学習部市民図書館副館長	岩城 千恵
委員	村山 耀一	生涯学習部市民図書館主査	高木 順平
委員	三島 照子	生涯学習部市民図書館主任	吉岡 律子
委員	志賀 健司		
委員	工藤 義衛		

### 次第1 開会

#### 【事務局（高木）】

- これより、令和4年度第2回石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会を開会します。
- 新型コロナウイルスの感染者数が増加しておりますので、本日の委員会は1時間程度とさせていただきますと思います。皆様、円滑な進行にご協力をお願いいたします。それでは、進行を田岡委員長、よろしく申し上げます。

#### 【田岡委員長】

- おはようございます。お陰様で第2巻が発刊され、本日は第3巻について議論したいと思います。第3巻のテーマについては、第1回の叢書発刊編集委員会において村山家を含め、石狩の歴史に関わる人物を取り上げるか否かなど議論されましたが、様々な分野を取り扱うことも叢書の役割として大きいということ、村山家はボリュームがあり、時間的な問題等を含め、このタイミングではなかなか難しいのではないかという意見が出されました。また、村山先生からも自身が執筆することについて、今の段階では非常に難しいというお話もございました。
- この点を踏まえ、第1回叢書発刊編集委員会で提案されたテーマ「石狩海岸の自然」について、先日、海浜植物の専門家に来ていただき、このテーマで叢書が発行できるのか、また、執筆者の目星をつけることが可能かなどについて、相談をさせていただきました。
- 専門家の方々からは、地元の協力さえあれば、お手伝いさせていただくことは可能であるとのお返事をいただいておりますので、第3巻目のテーマについては、「石狩海岸の自然」という方向性で進めていきたいと思っておりますが、皆様の忌憚のないご意見を申し上げます。では、教育委員会の方から説明をお願いします。

## 次第2 議題 (1) 石狩叢書第3巻のテーマについて

### 【事務局 (高木)】

- 資料の1ページをご覧ください。第1回叢書発刊編集委員会で委員の皆様より、3つのテーマをご提案いただきました。このテーマについて、本日は議論を深めていただきたいと思います。
- 「村山家と石狩の歴史」については、第1回叢書発刊編集委員会の終了後に、編集業者へ構成の例を提案していただけないかと相談したところ、10月になってから「提案には費用が必要である」という回答をいただきました。費用を要するという回答を受け、現在このテーマに向けた調査等につきまして、ストップしております。
- 「石狩人物史」については、前回、石橋委員よりご提案があったテーマです。その後、具体的な構成例等がありましたら、お話いただければと思います。
- 石狩の海浜植物については、前回、志賀委員よりご提案があったテーマです。その後、田岡委員長呼びかけで、専門家も含めて構成案について検討させていただきました。別紙の構成案をご覧ください。この時の出席者は、田岡委員長、三島委員、志賀委員、北海道大学講師 松島肇さん、元石狩海浜植物保護センター職員 内藤 華子さんです。
- 構成につきましては、導入として「石狩市の海岸は他の地域とは違う希少性がある」という点を説明します。内容は、叢書第2巻目のようにエピソード形式の読みやすいものとするを想定しております。分野としては、植物、生物、地形、文化、その他を想定しています。なお、ここにあげている具体的なエピソードはこれから精査が必要であると考えております。纏めとして、「石狩市の自然は、将来こんなに良いことがある」というように、未来へつながる明るいお話を想定しています。例えば、海岸の植生が将来、自然の堤防になり得るなど、有益性を具体的に説明していくことを考えています。
- また、この他に、厚田区・浜益区の自然は別巻として発刊を検討してはどうかという意見がありました。テーマに適した書き手を複数人選出と記載しておりますが、これは、具体的なエピソードの執筆は、内部・外部の有識者に依頼することを想定しています。このことから別途、原稿料の取扱いを検討する必要があります。
- この打ち合わせに出席されていた委員は、捕捉、ご説明等がありましたらお願いします。

### 【田岡委員長】

- エピソードの例については、打ち合わせの際に思いついた項目をざっと書き出しただけですので、書いているものにとらわれる必要はありません。今後、精査が必要です。
- まず一つは、第3巻目のテーマを「石狩海岸の自然」にするということで、よろしいでしょうか。
- 私が少し気になっているのは「石狩人物史」のことなのですが、人物史は長期に渡って資料を集め、場合によっては一つのテーマで1～2巻発刊することも考えられるのではないかと思います。そのため、石狩海岸に関する編集を行いながら、並行的に人物史の検討や資料集め等を行う必要があります。
- 石狩の郷土史研究を含め、石狩のまちづくりを振り返るために、人物史というのはあらゆる角度から見ても、残せるうちに残さなければいけないと思います。このことから、第3巻目として石狩海岸の自然を編集しながら、並行して石狩人物史の準備をする必要があります。

- ・ ただし、学芸員の皆さんが編集された方が専門性があるというのであれば、当委員会では取り扱わないということも考えられます。
- ・ まずは第3巻目について、特にご意見がなければ石狩海岸の自然で進めさせていただきたいと思いますが、志賀委員、何か意見はありますか。

【志賀委員】

- ・ 私が海浜植物を提案した理由は、石狩叢書イコール人物伝ではないということをはっきりしなければいけないと思ったからです。但し、第4巻目以降で人物を取り扱うのは良いと思います。

【田岡委員長】

- ・ 三島委員、何かありますか。

【三島委員】

- ・ 第3巻目は、石狩海岸の自然で良いと思います。また、石狩人物史は会長の意見どおり、第3巻目の発刊作業と並行して資料を集め、時間をかけて取り組む方が良いと思います。
- ・ 私は、「村山伝兵衛」を叢書として発刊することについて、まだ捨てきれません。村山伝兵衛の石狩への関わりについて、明治の一定の期間だけですが、叢書として発刊することは必要だと思います。

【村山委員】

- ・ 石狩人物史というのも叢書のテーマとしては重要だと思いますけれども、今回提案された石狩海岸は、具体的な構成案が出されておりますので、素早く取り組めそうです。そのため、第3巻目は石狩海岸の自然で進めた方が良いと思います。

【志賀委員】

- ・ 第3巻目以降の話ですが、これまで第1巻・第2巻と場当たりに発刊してきた経緯があります。そのため、予め取り扱うテーマを決めて、計画的に並行しながら発刊準備をしていく方法が良いと思います。

【三島委員】

- ・ 教育委員会としては、今後の発刊計画はあるのでしょうか。

【事務局（高木）】

- ・ 叢書発刊編集委員会で話し合っていきたいと考えております。

【三島委員】

- ・ 最初から場当たりに進んでおりますので、今後の長期展望が必要ではないでしょうか。

【田岡委員長】

- ・ 第3巻目が発行されたいくらいのタイミングで、叢書発刊編集委員会のメンバー構成や、本委員会の在り方についても考え直さなければいけないと思っています。
- ・ 叢書の発刊目的や内容、叢書発刊編集委員会の委員が誰なのかなど、市民にしっかり伝わっていないことも課題だと思っています。また、委員の公募の機会を設けることも必要ではないかと考えています。

【工藤委員】

- ・ 第3巻目では、石狩海岸の自然を取り使うということで構いません。
- ・ 石狩人物史を別の巻で取り上げることは賛成です。ただ、資料の収集や取り上げる人物のリス

トアップに時間がかかるため、準備は早い段階で進めていく必要があります。

【田岡委員長】

- ・ 私がイメージしている石狩人物史は、人物事典です。一人一人の人物に対し、たつぷりと説明を書くというよりも、1ページで一人を紹介するようなイメージです。

【工藤委員】

- ・ そのイメージであれば、他の人物史では取り上げられない、地域の方の掲載も考えられます。なおさら、動き出しは早い方が良いと思います。

【石橋委員】

- ・ 第3巻目のテーマについては、石狩海岸の自然に賛成です。
- ・ また、資料に予算が掲載されておりますが、謝金が5万円しか計上されていないことが気になります。この金額であれば、執筆者もあまり力が入らないと思います。200万円にも満たない予算で一冊を発刊できるのでしょうか。第3巻目の発刊後に体制や費用を再考すべきと考えます。
- ・ 前回の委員会で、村山家と石狩の歴史をテーマとして取り扱うことに反対しました。その後、色々資料を見ていくと、場所請負人の動きは明治時代の道庁や開拓史の施策に絡んできますので、取り扱うのであれば十分な精査が必要であることを確認しました。

【工藤委員】

- ・ 村山家についても、「村山家」を扱うのか「村山伝兵衛さん」を扱うのか、あるいは、いつの時代を扱うのかによって、構成が変わってきます。

【三島委員】

- ・ 第3巻目のテーマは、皆さん、石狩海岸の自然という方向で良いというご意見の様です。
- ・ 石狩人物史についても、皆様の意見を聞いていると、並行して資料収集などを進めて、発刊の準備をする方法が良いと思います。

【田岡委員長】

- ・ 発刊の準備には、専任の編集者が必要になってくると思うし、かなりの力量が求められると思います。図書館職員が通常業務を持ちながら、編集も行うことが事実上無理だとしたら、予算も人も、それから叢書の仕組みについてもしっかりと市と話し合う必要があると思います。

【事務局（高木）】

- ・ 今回、委員の皆様から提案されたご意見等につきましては、また別の機会でお話させていただきたいと思います。

【田岡委員長】

- ・ 石狩人物史については、粗々の構成のたたき台を石橋委員や皆さんと相談して、必要な予算や編集体制などに目星を付けなければいけません。
- ・ 第3巻は石狩海岸の自然を進めることを委員の皆さんに了承いただきましたので、今後、専門家の方々も含めて、具体的に進めていきたいと思っています。

次第3 報告(2) 令和5年度の発刊編集に係る予算について

※話し合いの流れから、議題(1)より(2)を先に議論することになった

【田岡委員長】

- ・ 本を1冊発刊するのに必要な経費としては、この予算では足りないのではないかと思います。原稿料の確保や印刷費についても、テーマが違えば印刷方法も変わってくると思うので検討が必要ではないでしょうか。

【事務局（高木）】

- ・ 事業費の総額の中で調整をしていくことも検討できると思います。

【三島委員】

- ・ 発刊に必要な経費がどれ程なのかは分かりませんが、もっと予算をいただけないのですか。第1巻・第2巻は簡単に出来ていますが、第3巻目は写真が多くなるのが想定されますし、複数の執筆者も関わるので、今までの予算で収まらないのではないかと思います。
- ・ 教育委員会として、今後もこれまでの予算額に基づいて発刊するということが良いと考えているのでしょうか。

【事務局（西田館長）】

- ・ 改めて、教育委員会内部で詰めさせていただきたいと思っております。
- ・ 私も叢書の発刊は、石狩市として来年度以降も継続すべき事業と捉えております。また、いつまでにどれくらいなのかというボリューム感も頭に入れながら、お互いの共通認識のもとで進めていくことが必要だと思っておりますので、その辺を詰めていきたいと思っております。

【事務局（岩城副館長）】

- ・ 予算要求をしていく中で、今後の事業展開スケジュールを立て、それに基づいた事業費を積算していく必要があります。また、カラー印刷のための経費が心配だということであれば、印刷製本費の80万円を令和4年度の予算額である100万円に戻して要求することも、現段階におきましては、調整できると思います。

【三島委員】

- ・ 石狩叢書の発刊は、石狩市としてどう捉えて許可したのでしょうか。それを考えると第3巻目で終わるとか、予算が無いとかという話にはならないと思うし、市長はどのようなお考えなんでしょうか。

【田岡委員長】

- ・ 叢書の発刊をやめるという見通しは当面は無いと思います。
- ・ 市長や教育長との間に、今後の叢書の発刊の方針について共通認識をもってもらう必要があると思います。

【三島委員】

- ・ どの市町村も叢書は、一度始めたら継続的に発刊されていますよね。

【工藤委員】

- ・ 第3巻以降で取り扱うテーマや内容がしっかりと示すことが出来れば、予算も要求しやすいですね。

【三島委員】

- ・ 資料を集めること自体も費用が掛かると思います。ボランティアで集めるという話にもならないと思います。市としての考え方をしっかり示していただく必要があるのではないのでしょうか。

【工藤委員】

- ・ 人物事典を製作するのであれば、作業ボリュームは多大になると思います。片手間にできる量ではありません。また、取り扱う人物の基準も早めに決めないと進みません。
- ・ 第3巻目は石狩海岸の自然で決まったので、早めに進めていきたいですね。

【事務局（高木）】

- ・ 本日、第3巻目のテーマを「石狩海岸の自然」とすることが決まったので、今後進めていきます。

次第3 報告(1) 石狩叢書発刊後の状況について

【事務局（高木）】

- ・ 会議終了時刻も迫ってきましたので、石狩叢書発刊後の状況についてご説明させていただきます。
- ・ 第2巻 田岡克介さんの鮭話彼是 鮭の鱗は、令和4年10月1日に発行しており、700部を印刷しております。販売場所は、図書館喫茶コーナー、石狩市役所の職員福利厚生会、道の駅石狩「あいろんど厚田」、石狩市観光センターとなっております。また、北海道新聞石狩当別版の10月15日に田岡委員長のインタビュー記事が掲載されました。
- ・ 第1巻、第2巻の配布・販売状況ですが、第1巻は600部印刷し、うち販売数が75、無料配布数が268、在庫数が257。第2巻は700部印刷し、うち販売数が133、無料配布が262、在庫が305となっております。

【三島委員】

- ・ この度、第2巻目を購入して思ったのですが、袋は無いのでしょうか。

【事務局（高木）】

- ・ 販売場所によると思います。

【田岡委員長】

- ・ もっと販売しても在庫数は大丈夫なのでしょうか。

【事務局（高木）】

- ・ まだ半分くらい在庫がありますので、大丈夫です。
- ・ 事務局からは以上です。

【田岡委員長】

- ・ それでは、これもちまして第2回叢書発刊編集委員会を終了いたします。

令和4年12月17日 議事録確定

石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 委員長

田岡克介